

役員所感

副理事長 谷村 洋一

高度成長期を経て世界を牽引してきた日本は、バブル崩壊以降の低迷期間は「失われた20年」と表現されています。では日本は何を失ったのでしょうか。それは物質的なものではなく、精神的なものではないでしょうか。社会が混沌としている今、人々が未来への夢や希望を描けない不安感が、この現状から抜け出せない一つの要因だと考えます。「明るい豊かな社会」を目指す我々は熱き想いを伝播し、人と地域を牽引する必要があります。

まず、我々が責任感を持ち運動すべき事は、社会に混在している問題点を敏感に察し、物事の本質を探る調査、メンバー全員で本気に取り組む姿勢、JCだからこそ出来る事業構築ではないでしょうか。そして、我々の熱い想いを外部に発信し、市民意識変革運動を巻き起こし、市民と想いを共感する事で、上越市民に大きな心の変化をもたらします。そんな組織には必ず新たな仲間が惹きつけられます。市民の意識向上からまちづくりを繰り返して行く事が肝要であり、産学官民が想いを一つにし、行動が出来た時こそまちの活性化へとつながります。また、その思いを継承するのは子どもたちです。子どもたちが成人になる頃には更にまちは変化し続けると思いますが、子どもたち自身がこのまちの可能性を知り、様々な経験をする事により美しいものや自然に感動する柔らかい感性、責任感、自立心、助け合う心、などの豊かな心を持つ人間性を育む事が肝心です。更に、子どもたちが自然豊かな上越に生まれ育った事に感謝し、故郷を誇りに思い、自らの未来に夢や希望を持ち、その実現に向かって精一杯取り組む事の出来る大人に育成する事が重要です。

我々が地域の未来を先導して行く立場としてまずは大人たちへ、そして地域の財産である子どもたちへ、どれだけのメッセージを伝えられるのかを模索し、後世へとつなげ共に創り上げるまちづくりを確立する事で、活気ある上越の実現に寄与するものと確信します。